

# 大迫町のレクリエーション空間における評価について

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭  
岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一  
岩手大学工学部 ○学生員 伊藤 一夫

## 1. はじめに

地域の個性作りからの人間居住環境の計画が重視される時代にな、長今、地方都市のレクリエーション空間創出のあり方如何は将来の都市へ新しい収容をもたらしうる可能性を秘めていると言えよう。

本研究は 上述のよろは地域の成長発展過程の認識のもとで、今後ますます重視されるであろう個性豊かな人間居住環境づくりと深くかかわるレクリエーション空間育成ための基礎的調査研究として レクリエーション資源がどのように評価されていくかを明らかにすることを目的とした。

調査対象は北上山系のほぼ中央に位置し、人口8千4百人の岩手県大迫町である。大迫町は早池峰山の秀でた観光資源があり、丘陵と河川などの自然環境のみならず史跡や社寺など歴史的環境にもめぐまれている。しかも郷土色豊かな祭りの保存育成が盛んであるといふユニークな雰囲気を持った町である。

## 2 研究方法

### ① 調査対象・調査地域および回答者

調査対象は大迫町以外より大迫町周辺の景観であり調査地域は大迫町全域である。被調査者はランダムサンプリングで選定された大迫町に居住する18歳～60歳の男女1,101人である。このうち回答者は1,042人で、回収率は68%であった。

### ② 調査方法および調査期間

調査方法は、イメージ再生法による。調査内容は、Q1-好きな「ところ」または好きな「景色」(場所)から見て(対象)は何れ。Q2-Q4で書いたものの中で最近10年間で悪くなってしまったと思われるものはどれか。Q5-Q8で書いたものの中で最近10年間で良くなってしまったと思われるものはどれか。Q9-Q12で書いたものの中で最近10年間で変わらなかったと思われるものはどれか。以上の中項目である。調査期間は、昭和57年8月9日から8月30日であり、留置調査法を行なった。

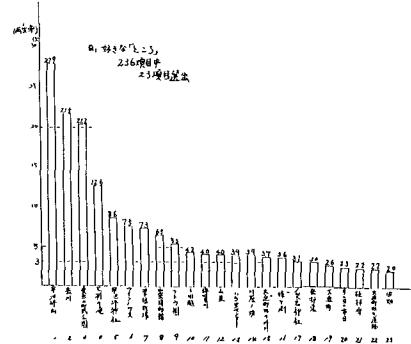


図-1 好きなところとして再生された再生要素

### 3 総計・解析結果および考察

#### ① イメージ再生された景観の評価

大迫町以外より町周辺の景観で好きな「ところ」または好きな「景色」としてイメージ再生された景観要素の総数は、885個にあれば。このうち再生率3.0%以上の要素('ところ')は8個、「景色」9個)27個に注目すると、図-1、図-2のとく示される。

そのうちで再生率3.0%以上のものを景観特性を考えるうえで特に重要な様にはる要素と考えてパブリック・コア・ユレメント(以下コア・エレメント)とする。コア・ユレメントは、「ところ」では3要素あり、「景色」では2要素ある。特に再生率25%を越える早池峰山においては、「景色」で視対象としての再生率は80.8%である。

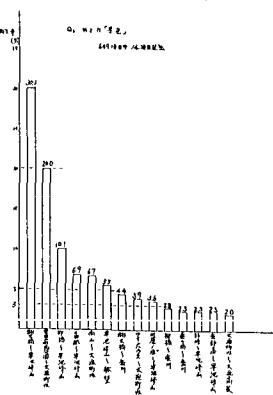


図-2 好きな景色として再生された再生要素

び視点場の再生率は12.6%ある。大迫町のレクリューションの象徴であることが見える。再生率20%から5%までの要素を大迫町のレクリューション空間に個性を創出する要素と考えてキー・ユレメントとする。シーキー・エレメントは「ところ」「好み要素あり、「景色」では平要素ある。再生率5%から2%までの要素は重要な空間的・景観的特性を示すものと考えてセミ・パブリック・エレメントとする。このセミ・パブリック・ユレメントは「ところ」では9要素あり「景色」では8要素ある。この要素は、図づくりの中で個性を生み出す要素の空間・景観要素として大切に育成されなければいけない。再生率2%以下の要素を被験者独自のイメージとかかわる要素と考えてペーソナル・エレメントとする。上のペーソナル・ユレメントは858個にわたり大迫町に散在する多くの個人的要素についても大迫町のひとつの景観的特性を示すものであり日常生活の中新しい発見やみどころを演出する多様な町の風景でもまた景観要素として重視されるものである。

### ② イメージ再生された変化に対する評価(表-1)

「ところ」において、良くな、たと言える要素に愛宕山町民公園、ワインハウス、山岳博物館、変わらぬと言える要素に七折の道、悪くな、在と言える要素に岳川、柳ヶ原川が上げられ、明確に検定された。「景色」において、良くな、たと言える要素と悪くな、在と言える要素は、なく、良くな、たと言える要素と変わらぬと言える要素の中间に愛宕山町民公園から見大迫町役場、小田越から見た早池峰山、早池峰山からの眺望、変わらないと言える要素に柳ヶ原山見大池峰山、悪くな、たと言える要素と変わらぬと言える要素の中间に柳ヶ原山見大池峰山、柳ヶ原山見大池峰山、上げられた。

### ③ イメージ再生された要素の分布および類型化

分布は、「ところ」及び「景色」とともに早池峰周辺を中心部に大分される。

種類をみると、自然资源と人文資源のバランス人はほどよくされているが、人文資源の中でレクリューションの核をコア・ユレメントが付いたことわかる。

全体をみると、早池峰周辺には自然资源、町中心部には人文資源が、分布していることがわかる。

表-1 イメージ再生された景観の変化に対する評価の検定

要素	再生率	評価
1. 好きなところ	20.0%	愛宕山町民公園 ワインハウス 山岳博物館
2. 好きな景色	12.6%	柳ヶ原山見大池峰山 小田越から見た早池峰山 柳ヶ原山見大池峰山
3. 変わらぬところ	5.0%	七折の道
4. 変わらぬ景色	2.0%	岳川 柳ヶ原川
5. 不良なところ	2.0%	在
6. 不良な景色	2.0%	在
7. ペーソナル	858.0%	愛宕山町民公園 ワインハウス 山岳博物館 柳ヶ原山見大池峰山 小田越から見た早池峰山 柳ヶ原山見大池峰山 七折の道 岳川 柳ヶ原川 在

有意差検定による(危険率5%)

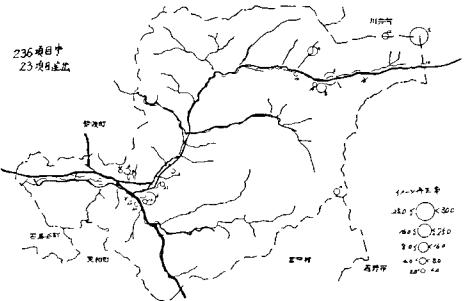


図-3 好きな「ところ」として上げられた要素分布

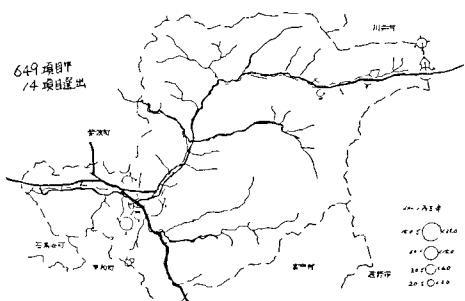


図-4 好きな「景色」として上げられた要素分布

表-2 イメージ分析により抽出されたみちのく大迫町 レクリエーション資源の種類

資源	場所	種類	年毛	特徴
自然	山	早池峰山	1	御大池 野原 柳ヶ原山見大池峰山
	東	× 山並	2	山岳博物館 ワインハウス 七折の道 柳ヶ原山見大池峰山
	西	× 田原	2	柳ヶ原山見大池峰山
文化	山	山岳博物館	1	柳ヶ原山見大池峰山
	川	川筋	3	御大池 柳ヶ原山見大池峰山
	河	河筋	2	柳ヶ原山見大池峰山
原	山	× 柳ヶ原山	2	柳ヶ原山見大池峰山
	川	× 田原	2	柳ヶ原山見大池峰山
都市開発	山	× 田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
	川	× 田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
人	山	山岳博物館	1	柳ヶ原山見大池峰山
	田	田原	3	柳ヶ原山見大池峰山
	河	河筋	1	柳ヶ原山見大池峰山
文化	山	山岳博物館	1	柳ヶ原山見大池峰山
	田	田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
	河	河筋	1	柳ヶ原山見大池峰山
施設	山	山岳博物館	1	柳ヶ原山見大池峰山
	田	田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
	河	河筋	1	柳ヶ原山見大池峰山
月	山	× 田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
	田	田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
	河	河筋	1	柳ヶ原山見大池峰山
都市開発	山	× 田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
	田	田原	1	柳ヶ原山見大池峰山
	河	河筋	1	柳ヶ原山見大池峰山

注: 1. 人文資源は、歴史性のあるもの以上、なへかの(1)に分類した。  
2. 文作にて、うちものは、イメージ分析で満たさぬもの。